



2023年度 一般社団法人 大学女性協会 全国セミナー

教育・ジェンダー・共生

～ ユースの力を日本の未来に活かすために ～

日時：2023年10月21日(土) 11:00～16:30 / 22日(日) 9:30～11:40
会場：エッサム神田ホール 1号館 3階・大会議室 301号
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-2-2
主催：一般社団法人 大学女性協会

ご挨拶

大学女性協会 会長 岩村道子

本日は大学女性協会の全国セミナーにご参加くださりありがとうございます。

従来、私共のセミナーは国立女性教育会館を会場として会期2日間で開催しておりましたが、一昨年はコロナ禍ということもあり一日のみのセミナーでした。隔年で開催しているシンポジウムとセミナーですが、3年続けて、この会場、エッサム神田にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催することとなりました。それでも、今回は久しぶりに一日半の開催として、3つの分科会も用意いたしました。これまでよりも多数の会員、そしてこのセミナーのテーマに関心をお持ちくださった一般の方や学生さんをご参加くださっています。

2018年度からのメインテーマは、「教育・ジェンダー・共生」としています。昨年度は、「ユースの視点から見直そう これからの日本」をサブテーマとして、コロナ禍により変化した日本の社会の状況、とくに現役世代や若者が直面している問題を取り上げました。

今年度は基調講演者に三浦まり氏をお招きし、ジェンダーギャップ指数125位の日本におけるジェンダーと政治との関係を生きづらさをテーマとしてお話しいただきます。分科会では好評だった昨年のシンポジウムに引き続き形で「ユースの力」を教育・ジェンダー・共生それぞれの切り口で活かしていくために、大学院生、企業の研究員（エンジニア）、地方政治に直接携わっていらした方などにお話しいただきます。参加者の皆様と、ユースの目指す未来の姿に共感し、大学女性協会としてどのような貢献ができるかを考えたいと思います。

開催趣旨

大学女性協会 企画委員長 中道貞子

大学女性協会は社会の変革を担う女性リーダーの輩出を願って活動を続けています。先輩たちが築いてこられたものを次世代につなげていくために、昨年度のシンポジウムでは、「ユース」の声に耳を傾けました。そこから浮かびあがってきた様々な課題の解決に向け、今年度のサブテーマは「ユースの力を日本の未来に活かすために」としました。国内奨学生やCSW67に参加された学生さん、日々学生たちと向き合っておられる先生方、政治の世界で活躍されている会員にご登壇いただきます。また、昨年度のシンポジウムで伺った「学生たちの生きづらさ」に焦点を当てて実施した調査・研究委員会によるアンケート調査の中間報告、「大学における障害学生支援」についての社会福祉委員会による実態調査結果についてもご報告します。未来を託すべき次世代の人々が希望をもって生きることのできる社会の構築のために、今、大学女性協会という Association だからこそできることが何かをみんなで考え、広く、いろいろな方とつながり、解決の糸口を見つけていきたいと思っています。

プログラム

10月21日(土)

- 11:00 開会 総合司会 鷺崎千春
会長挨拶 岩村道子
ビデオメッセージ 内閣府男女共同参画局 局長 岡田恵子
- 11:10 基調講演
生きづらさに立ち向かう
三浦 まり (上智大学法学部法律学科 教授 東京支部)
- 12:40 — 昼食・休憩 —
- 13:30 全体会 I
CSW67に参加して 小林萌菜 (国際基督教大学)
嶋田梨子 (国際基督教大学)
調査・研究委員会「生きづらさ」アンケート調査中間報告
委員長 片岡雅子 (岡山支部)
世代間交流の取組み—みんなで子育て・鎧を脱いで—
中島美那子 (茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 教授 茨城支部)
- 14:40 — 休憩・分科会会場へ移動 —
- 15:00 分科会
1. 《教育》「キャリア構築を目指して」
(パネリスト)
「女の子だから」できない? 伊津野舞佳 (慶應義塾大学大学院)
博士号取得後のキャリア形成 紀本夏実 (株式会社ジョブ)
(ファシリテーター) 安田恵子 (奈良支部)
2. 《ジェンダー》「改めて問う 女性の政治参画に今、必要なものは何か」
(パネリスト)
史上最年少市長と選挙を戦って 伊藤舞 (前芦屋市長 神戸支部)
挑戦への一歩を踏み出すために 日向美砂子 (元小平市議会議員 東京支部)
(ファシリテーター) 山下いづみ (静岡支部)
3. 《共生》「誰もが生きやすい社会を目指して」
(パネリスト)
障害者就労における「能力」観 濱松若葉 (津田塾大学大学院)
大学における障害学生支援の課題
遠藤理枝 (社会福祉委員会委員長 東京支部)
(ファシリテーター) 勝又幸子 (静岡支部)
- 16:30 分科会 閉会
- 17:30 懇親会 「神田江戸ッ子寿司 江戸之家」(西口店とは違います) 神田駅西口徒歩1分
(19:30 閉会)
-

10月22日(日)

- 9:30 全体会 II 進行役 中道貞子
分科会報告とディスカッション
分科会報告者: 1. 岡本美和 2. 山下いづみ 3. 勝又幸子
- 11:30 諸連絡
- 11:40 閉会

基調講演者のプロフィール

三浦 まり

(上智大学法学部法律学科 教授 東京支部)



内容：学生たちから、性的同意を含むジェンダー教育を充実させてほしい、ハラスメント対策の実効性を高めてほしいなどの要望が高まっています。学問共同体において性差別やハラスメントを引き起こす権力関係に気付き、どのような対応や制度改革が必要か、また学生たちの参画やアクティビズムの重要性などについてお話しします。

略歴：慶應義塾大学法学部卒業、慶應義塾大学大学院法学研究科、カリフォルニア大学バークレー校にて Ph.D. (政治学) 取得。専門はジェンダーと政治、福祉国家論、ケアと民主主義論。「Qの会」顧問。著書に「さらば、男性政治」(岩波新書 2023)、「政治って、面白い！：女性政治家 24 人が語る仕事のリアル」(花伝社 2023) など。パリティ・アカデミー共同代表。

各分科会の開催趣旨

分科会《教育》	分科会《ジェンダー》	分科会《共生》
キャリア構築を目指して	改めて問う 女性の政治参画に今、必要なものは何か	誰もが生きやすい社会を目指して
社会人として活躍し続けるためには、大学卒業後のキャリア構築も重要である。大学卒業後にどんな学びや取り組みをしてキャリア構築に活かしてきたか、あるいは、どんな姿勢でキャリア構築に臨もうとしているのかについて提案してもらい、社会人として活躍し続けるためのキャリアアップのあり方などについて議論したい。	日本の政治の世界に女性議員が少ないことが言われて久しい。女性の政治世界への参画を妨げるものは何か、また、それを乗り越えるためには何が必要かを議論したい。2023年4月の選挙では、女性議員がこれまで以上に増えたが、その理由や問題点などについても考えたい。	SDGs の前文には「だれ一人取り残さない」とあるが、現実には、マイノリティーであるがゆえに生きづらさを抱えている人たちがいる。今回は、障害者に焦点を当て、その能力をどうとらえるのかを考察するとともに、大学での支援の現状についての報告をもとに、共に生きやすい社会になるために何が必要かを議論したい。

パネリストのプロフィール

「女の子だから」できない？

伊津野 舞佳

(慶應義塾大学大学院医学研究科 2022 年度安井医学奨学生)



「女医」に対する男性医師を表す単語がないことは、医師、ひいては理系全体の男性優位の状況を示す一例と感じます。その中でも、女性としてキャリアを構築することに難しさを感じることは、特定の業界に限らず共通しているとの気づきから、分野横断的なプログラムや交流活動に参加してきました。国内外の女性リーダーや若い世代との出会いから得た学びや考えの変化を紹介します。

博士号取得後のキャリア形成

紀本 夏実

(株式会社ジョブ 2019 年度国内奨学生)



私は企業で学生のときから携わってきたテーマの製品化に向けた開発を行いながら、著書の執筆なども行い、学術面での活動も続けています。責任感を持って好きなことを十分に行いキャリアアップを目指しています。

史上最年少市長と選挙を戦って

伊藤 舞

(前芦屋市長 神戸支部)



4月23日投開票の芦屋市長選挙による「26歳、史上最年少市長誕生」は、日本に留まらず海外の報道でも大きく扱われました。現役市長でありながら落選を経て、改めて無所属女性市長の4年間と選挙戦を振り返ります。

挑戦への一步を踏み出すために

日向 美砂子

(元小平市議会議員 東京支部)



女性の政治参画を阻むものは、あちこちにあります。家族の理解、しごとや子育てとの関係、ハラスメント、そしてなにより自分自身の決意…。自身の議員活動と今に至るサポート役の経験、周りにいる女性議員たちの声から、感じていることを報告します。

障害者就労における「能力」観

濱松 若葉

(津田塾大学大学院国際関係学 研究科 2022 年度国内奨学生)



日本には、障害のある方が働くことを支える法律や施策があるにも関わらず、職場でステップアップする機会を与えられないケースがみられます。障害のある方が本質的に働くことを可能にする「能力」観を議論します。

大学における障害学生支援の課題

遠藤 理枝

(大学女性協会社会福祉委員会委員長 東京支部)



全ての人々が共生できる社会の実現に係るインクルーシブ教育(初中等教育)の先にある大学における障害学生支援調査から見えてきた課題と今後の展望について、障害学生への支援事業をも含めてお話をいたします。

ご来場の皆さまへ（諸連絡）

本日は 一般社団法人 大学女性協会の 2023 年度全国セミナー

「教育・ジェンダー・共生 ～ユースの力を日本の未来に活かすために～」

にご来場くださり、ありがとうございました。

<アンケートのお願い>

今後の企画や運営の参考にさせていただきますので、アンケートへの回答をよろしくお願ひします。
対面参加の方は、最初にお配りしたアンケート用紙にご記入の上、退出時にご提出ください。

ZOOM 参加の方は、以下の URL または QR コードから回答をお願いします。

<https://forms.gle/71pDnXQgNGrMyEJh9>



<資料や報告書に関して>

本日の発表資料類がご本人から提供された場合は、12月15日をめぐに本協会のホームページ

<https://www.jauw.org>

にアップロードする予定です。

報告書は年度内に作成する予定です。大学女性協会の会員およびグーグルフォームからの申込み時に希望された方には 2024 年 3 月中にお届けします。まだお申し込みでない方で報告書をご希望の方は郵便、またはファックス、メールでご連絡ください。お問合せは電話でも応じます。

一般社団法人 大学女性協会

住 所：〒160-0017 東京都新宿区左門町 11 番地 6 パトリシア信濃町テラス 101

T E L : 03-3358-2882 (原則 月・火・木・金の 11:00~15:00)

F A X : 03-3358-2889

当日携帯 : 070-2319-6742

E-mail : jauw@jauw.org

一般社団法人 大学女性協会は、1946 年に、女性の高等教育の向上と、男女共同参画社会の推進、および国際協力・世界平和を願って、創立されました（当時の名称は大学婦人協会）。

平和な世界の実現を目標に、70 年以上にわたって、国際連合をはじめ国内外の諸団体と手を携えつつ、種々の活動を展開しております。つねに、より多くの方々に大学女性協会へのご参加を呼びかけております。ご関心をお持ちの方は、お近くの会員、または直接当協会へご連絡ください。（連絡先は上記に同じ）

一般社団法人 大学女性協会 会 長 岩村 道子

副会長 中道 貞子 セミナー企画委員長

副会長 市川 知恵子 セミナー実行委員長